

「それ、やる意味ありますか？」

**「価値がない」のか、
「価値がわからない」のか。**

賢そうな言葉の罠

「無駄なことに時間やお金を使いたくない」

「最短距離で成長したい」

これらは一見、
極めて合理的な判断に見える。

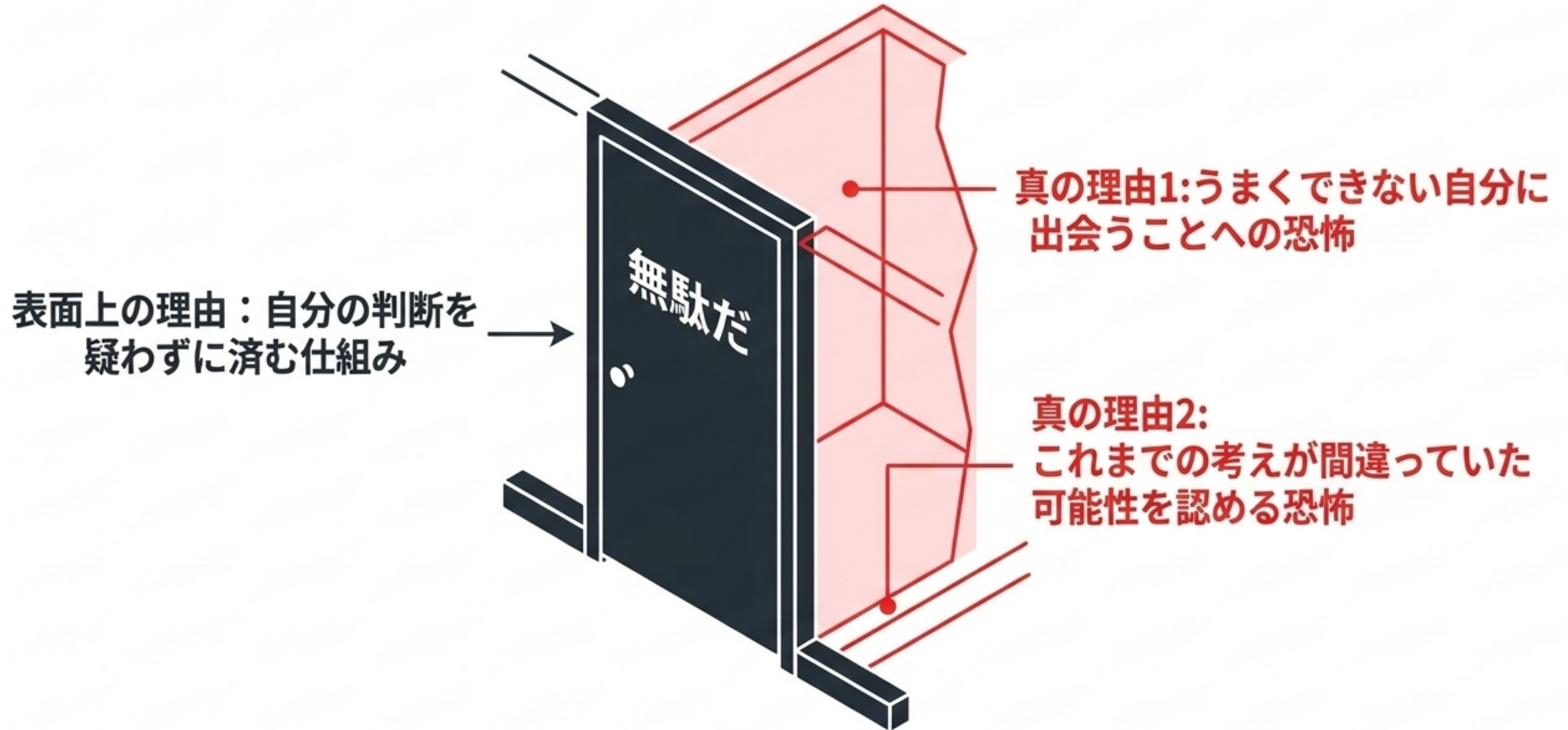


何が成長につながるか、
やる前から見抜ける。

しかし、その「無駄」を
判定しているのは、
まだ思うような結果を
出せていない自分だ。

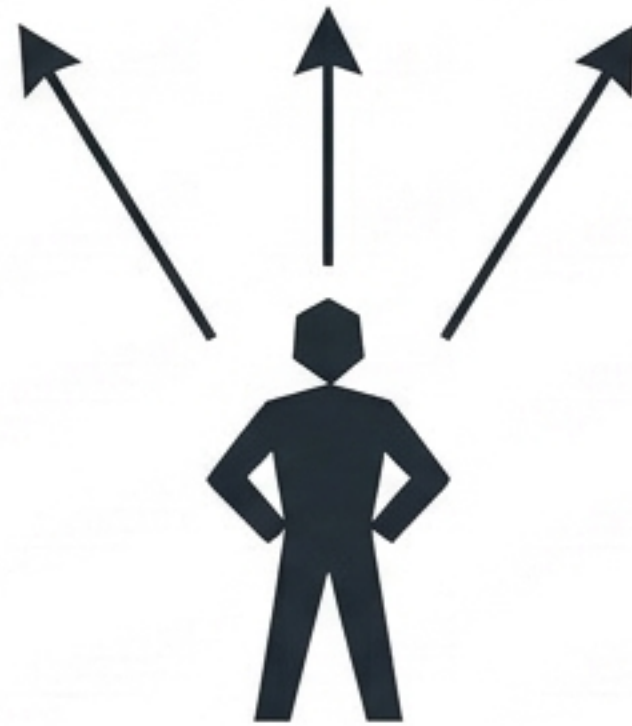
自分の判断がそれほど確かなら、
もっと結果に結びついているはずではないか？

合理性の裏に隠れた「防衛本能」



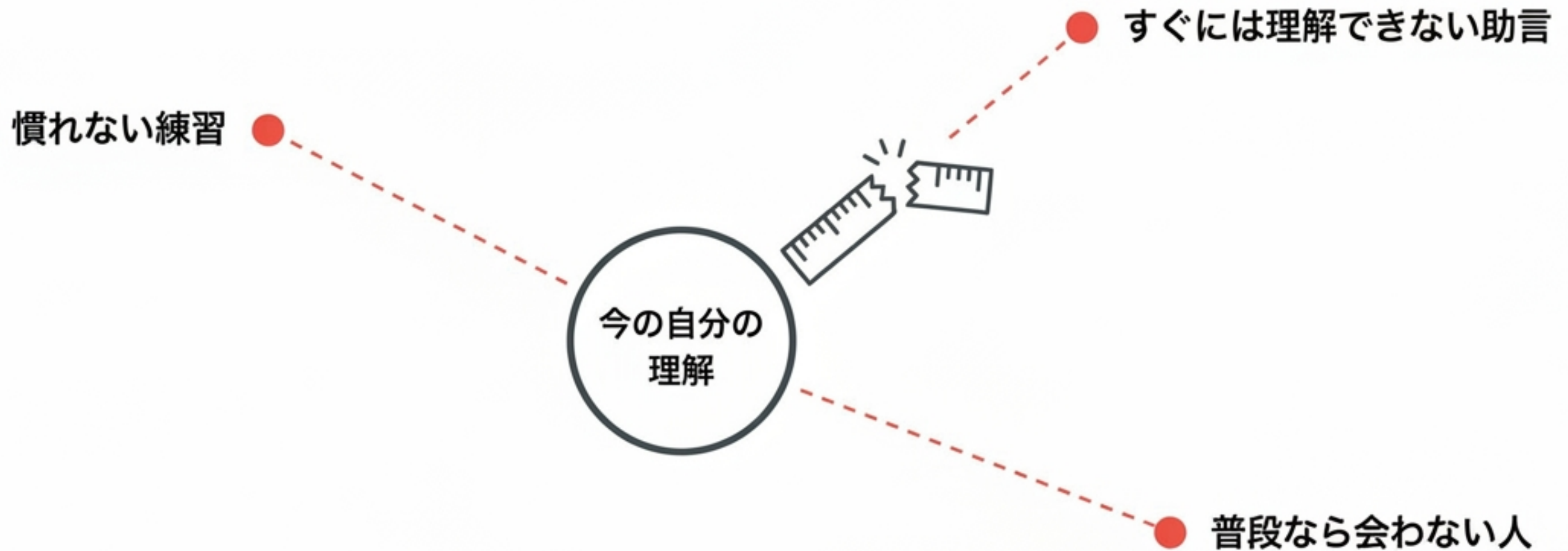
「自分が理解・納得できること」

今の理解が、自分の成長の上限になる。



説明を聞いて理解できなかったとき、
そこから試せるか。
それとも、納得できないことを
理由に切り捨てるか。

未知を測る「物差し」の欠陥



今の自分の物差し（判断基準）では、枠の外にあるものの
価値を正確に測ることは不可能である。

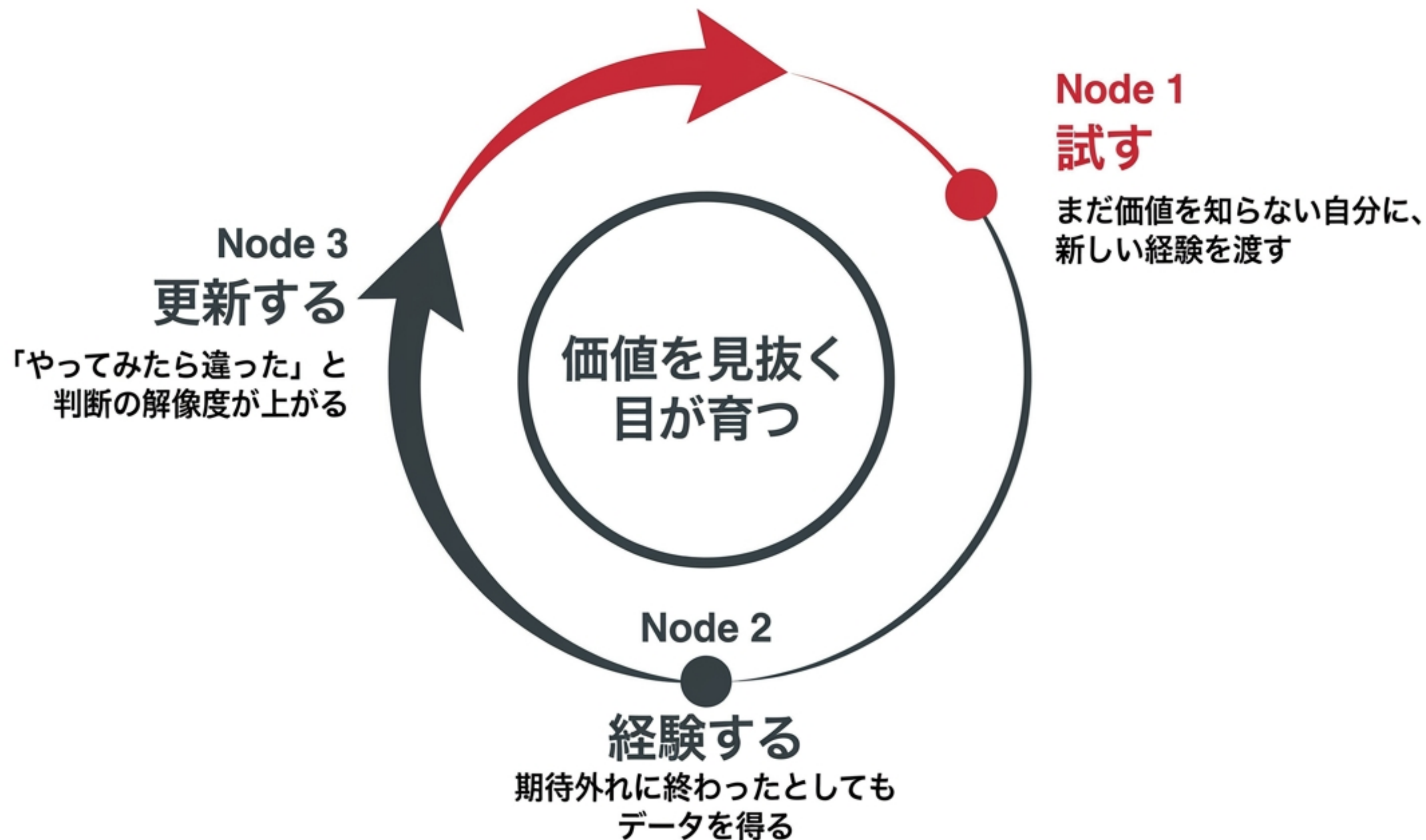
~~「価値がない」と~~

「自分には価値がわからない」は、
まったく別の話だ。

「無駄」に対する2つのマインドセット

	「価値がない」と切り捨てる人	「わからないから試す」人
未知への対応	試さない	無駄になる可能性も引き受けて試す
真の動機	失敗や自己否定の回避	新しい経験の獲得
価値を見抜く 目の変化	変わらない（物差しを確かめられない）	経験により「見抜く目」そのものが育つ
成長の上限	今の自分の理解度が限界	上限なし

価値を見抜く目は、経験の後にしか育たない



「今の私には、まだわからない。」



「だから、試してみる。」

次に選ぶ自分は、試す前より少し変わっている。

その一步を踏み出せる余白を、
賢そうな言葉で埋めてしまいたくありません。

- レン